

令和7年度の実績（見込）及び令和8年度計画

1. 在宅医等養成研修・専門職向け研修2
2. 市民向けACP等周知5
3. 参考資料8
4. 令和8年度の計画（案）9

1. 在宅医等養成研修・専門職向け研修

(1) 目的・概要

医師・介護専門職の方々に在宅医療に关心を持っていただくとともに、専門職間の連携を促進することを目的とする。

(2) 実績（見込）

静岡医師会

●在宅医等養成研修（1回）

「すべての人に緩和ケアを」
～「透析を止めた日」から～

- ・開催日：令和7年10月4日（土）
- ・参加者数：医療・介護専門職117人
- ・開催場所：グランシップ
- ・参加者満足度：93.2%（109人/117人）

清水医師会

●在宅医等養成研修（1回）

「医療・介護現場で役立つ法的知識」
－診断書・法的知識・カスハラー

- ・開催日：令和8年2月17日（火）
- ・参加者数：医療・介護専門職（募集中）
- ・開催場所：カーニープレイス清水
- ・参加者満足度：-%

●同行訪問研修

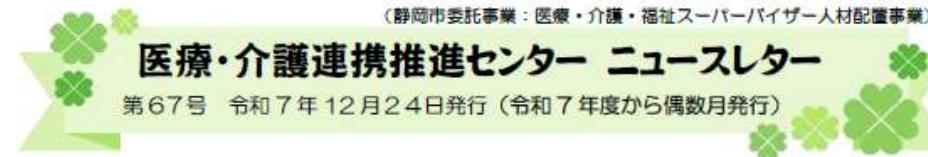
- ・開催日：令和7年9月～12月
- ・参加者数：13人
- ・別途報告会（1回）開催予定

●同行訪問研修

- ・開催日：令和8年2月12日（木）
- ・参加者数：医師最大4人（募集中）
- ・別途報告会（1回）開催予定

1. 在宅医等養成研修・専門職向け研修

(3) 在宅医等養成研修概要 (静岡医師会)



在宅医療に関する意見交換会 《静岡市静岡医師会 在宅包括委員会委員 遠藤博之》

10月4日にグランシップで在宅医療に関する意見交換会が開かれました。

「End of Life Care～すべての人に緩和ケアを」と題してお話をさせていただきました。当日は皆様のご尽力もあり本当に多くの方にお集まりいただけ、特にグループワークではどのグループのテーブルも熱心に話し合いをされていて、見ている私の方が感動しておりました。

今回の緩和ケアのWHOの定義は「生命を脅かす疾患に起因した諸問題に直面している患者と家族のQOLを改善するアプローチ。身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな諸問題の早期かつ確実な診断、早期治療と対応により苦痛の予防と苦痛からの解放を実現」とあります。下線部の身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな諸問題は、やはり直接人と人が対面し、ふれあい、声を掛け合い、わかり合っていくものではないかと今回の皆様のお姿を見て改めて感動しました。これからの超高齢化社会の中で医療・介護をしていく時に緩和ケアは欠かせないものだと思います。

私はさらに自分の人生の中でも自分自身への緩和ケアは欠かせないものと感じております。

目の前の人への緩和ケアのためにも、そして自分自身への緩和ケアのためにも、また来年、この在宅医療に関する意見交換会で直接お会いし、声を掛け合い、楽しいひと時を過ごしましょう。

第9回 「在宅医療に関する意見交換会」ご報告

日 時：令和7年10月4日（土）
14:00～16:30
場 所：グランシップ6階交流ホール
参加者：117名

- 講演『すべての人に緩和ケアを～「透析を止めた日」～』たんぽぽ診療所 遠藤博之院長
- 事例紹介

①透析非導入を選択した高齢者の意思決定支援

訪問診療医 遠藤博之院長（たんぽぽ診療所）
訪問看護師 杉山幸穂氏（訪問看護ステーションおしかサテライトみかど台）
ケアマネジャー 山崎聖子氏（サンケア瀬名）

②透析離脱後の生活の支援

訪問診療医 遠藤博之院長（たんぽぽ診療所）
訪問看護師 増田恵美氏（訪問看護ステーションおしかサテライトみかど台）
ケアマネジャー 三橋尚充氏（聖ヨゼフの園）

講演と事例を通して「すべての人にエンド・オブ・ライフケアの光を」について学んだ。

3 グループワーク

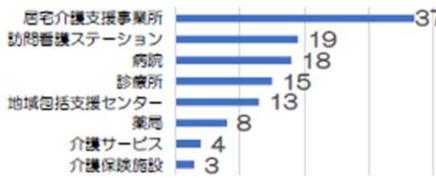
多職種で構成されたグループで「人生の最終段階における意思決定を支えるために専門職としてどのような関わりができるか」について意見交換を行った。

◆アンケート結果 回収数 116 (回収率 99.1%)

(1) 職種別参加人数 (人)



(2) 勤務施設別人数 (人)



(3) 内容について

満足した	109人
どちらとも言えない	2人
不満足であった	0人
未記入	5人



*内容についてのご意見・ご感想（一部抜粋）

- ◆全体について
・講演⇒事例⇒グループワークがとてもつながりがあって勉強になった
- ◆講演について
・遠藤先生の講演がわかりやすく興味深かった
・「死へ暗やみの中をすすんでいく」すごく考えさせられた
・緩和ケアに対する考え方方が変わった
・緩和ケアは特定の疾患だけでなく、すべての疾患に対して考える必要があることを改めて学んだ
- ◆事例について
・末期腎不全の看取りについて関心があったが、これまでイメージがでていなかった。本日実症例の提示があり、少しイメージができた
- ◆グループワークについて
・医師が入ってくださり、話し合いの質があがった
・多職種の専門性のある立場での現場での話を聞いて参考になった

(4) 業務の参考になることはありましたか

ある	112人
ない	0人
未記入	4人



ご意見（一部抜粋）

- ・多職種連携を具体的にどのようにとて、当事者の人生観、価値観を共有する大切さを再確認した
- ・最期を迎える万にに対して、本人の思い、家族の思いをしっかりと聞き取り寄り添う姿勢が重要
- ・チーム連携で支えることが大切と改めて認識した。積極的に他の職種の方と関わっていきたい
- ・多職種連携の大切さ、情報共有の大切さを感じた

(5) 全体を通してのご意見・ご感想（一部抜粋）

- ・いい試みだと思った
- ・次回も参加したい
- ・今後も続けてほしい
- ・関心の高いテーマに期待以上の内容であった
- ・検討課題が広すぎたように思った
- ・グループワークの役割を事前に決めておいてほしい



グループワークの記録から職種や所属の専門性を活かした意見交換が活発に行われたことがうかがえました。人生の終焉に向けた支援には、専門性と経験を活かし、相互に補完していくチーム力が欠かせないことを再確認できたように思います。

発行者：静岡市静岡医師会 医療・介護連携推進センター

〒420-8603 静岡市葵区東草深町3-27

☎ 054-247-5788

編集後記：今年度もたくさんのご参加をいただきありがとうございました。アンケート結果から、参加していただいた皆様に満足いただけたことに安堵しております。今後も本意見交換会ではACPをテーマに、事例を通して多職種で活発な話し合いが行われるよう企画してまいります。次回多くの皆様のご参加をお待ちしております。

1. 在宅医等養成研修・専門職向け研修

(3) 在宅医等養成研修概要 (清水医師会)

 静岡市専門職向け研修・在宅医等養成研修

参加無料

医療・介護現場で役立つ法的知識
-診断書・法的基礎知識・ハラスメント-

2026年2月17日(火) 19:00~20:30(18:30受付開始)

- ・対象: 医療・介護・福祉専門職
- ・参加方法: 会場参加またはオンライン
- ・会場: カーニープレイス清水6階(清水区江尻東一丁目1-5)

内容

1. 司法に関わる診断書が現場でどう使われているか
各制度における診断書の役割と具体的な活用例
2. 医療・介護・福祉職が押さえておきたい法的基礎知識
成年後見、相続、権利擁護など、現場対応に役立つ基礎知識
3. カスタマーハラスメント・ペイシェントハラスメントへの対処法(入門)
不当要求への対応視点、記録、連携の工夫

講師

 可児 望 先生(弁護士/日出町法律事務所)
・債務整理、家事事件、一般民事、刑事事件まで幅広い実務経験有
・法テラスでの執務中は、高齢・障害・貧困など生きづらさを抱える方への支援にも従事
・清水医師会「なんでもかんでも相談会」にも継続参加
*法テラス:日本司法支援センター

参加方法

- 会場参加
定員40名(先着順)
なるべく公共交通機関をご利用ください。お車の場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。
- オンライン
定員300名(先着順)
2月16日(月)までに、Zoom URLをメールにて送付します。

申込方法

Web申込は[こちら](https://logoform.jp/form/79j2/1348320)


2月12日(木)まで
FAXの場合は裏面の申込書に記入し、
(054-221-1577)へ送信してください

問合せ先

静岡市 地域包括ケア推進課
在宅医療・介護連携係 (担当:橋本・青島)
電話 054-221-1576(平日8:30-17:15)

(3) 在宅医等養成研修に係る令和3年度から令和6年度までの実績報告

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
日時	令和4年1月8日 15時～17時	令和4年2月3日 19時～20時30分	令和4年12月17日 15時～17時30分	令和5年3月16日 19時～20時30分	令和5年11月25日 15時～17時30分	令和5年10月3日 19時～20時30分	令和6年10月26日 14時～16時30分	令和6年9月10日 19時～20時15分
場所	静岡市静岡医師会館 オンライン	カーニープレイス オンライン	静岡市静岡医師会館 オンライン	カーニープレイス オンライン	静岡市静岡医師会館	カーニープレイス オンライン	グランシップ	カーニープレイス オンライン
参加者	医師：15名 薬剤師：9名 看護師：34名 ケアマネ：35名 その他専門職：31名 計 124名	医師：14名 歯科衛生士：1名 その他専門職：22名 計 37名	医師：15名 薬剤師：5名 看護師：25名 ケアマネ：48名 その他専門職：31名 計 124名	医師：9名 保健師：1名 ケアマネ：4名 計 14名	医師：12名 歯科医師：2名 薬剤師：9名 看護師：25名 ケアマネ：31名 その他専門職 47名 計 126名	医師： 13名 看護師：14名 その他専門職：8名 計 35名	医師：5名 薬剤師：9名 看護師：18名 ケアマネ：25名 その他専門職：52名 計 109名	医師：19名 薬剤師：8名 看護師：22名 ケアマネ：27名 その他専門職： 4名 計 80名
テーマ	コロナ禍における在宅医療・介護の連携について	「嚥下に関する取組」 ～歯科医師が行う、嚥下内視鏡～	支える側のグリーフケアを含めたメンタルケア	「在宅医が遭遇する整形外科疾患」 ～脊椎圧迫骨折・大腿骨頸部骨折の生存率はガンと変わらないことをご存知ですか？～	事例をもとに多職種で一緒に考えてみましょう	在宅医に知りたい褥瘡マネジメント	「本人の意思決定による人生の最終段階における生き方支援」 ～静岡市版エンディングノートの紹介と事例発表～	幸せに最期を迎える為の「備え」と「覚悟」～エンディングノートの利活用もふまえて～
内容	講演 『新型コロナウイルス蔓延が明示した「死が身近に存在するという現実』』講師：小堀鷗一郎氏 (埼玉県新座市堀ノ内病院)	講演 「嚥下に関する取組」 ～歯科医師が行う、嚥下内視鏡～ 講師：渡邊宏春氏 (さくらばし歯科医院 院長)	講演 「ユニバーサル・ホスピスマインドを伴走型支援の中心に」 講師：小澤竹俊氏 (めぐみ在宅クリニック院長)	講演 「在宅医が遭遇する整形外科疾患」 ～脊椎圧迫骨折・大腿骨頸部骨折の生存率はガンと変わらないことをご存知ですか？～ 講師：松浦知史氏 (松浦整形外科院長)	グループワーク 「事例を通じた課題検討」	講演 在宅医に知りたい褥瘡マネジメント 講師： ・鈴木沙知氏（静岡赤十字病院 形成外科部長） ・大川 瑞江氏（訪問看護ステーション清水皮膚・排泄ケア認定看護師）	講演 「幸せに最期を迎える為の「備え」と「覚悟」～エンディングノートの利活用もふまえて～」 講師：平野周太氏 (平野医院院長) 事例発表・グループワーク	講演 「幸せに最期を迎える為の「備え」と「覚悟」～エンディングノートの利活用もふまえて～」 講師：平野周太氏 (平野医院院長) 5

その他、県医師会や各職能団体でも研修が専門職向け研修を行われている。

2. 市民向けACP等周知

(1) 目的

終末期医療に対する希望や人生の最終段階の医療、もしもの場合の話し合い、相談等を進め、本人らしい最期の在り方を考えてもらうことを目的とする。

(2) 在宅医療・介護出前講座

開催月日	参加者	講座内容
1 令和7年7月18日	30人	よくわかる在宅医療・介護について
2 令和7年8月11日	50人	エンディングノートの活用について
3 令和7年9月17日	36人	エンディングノートの活用について

(3) 広報（主にエンディングノートを活用した周知）

- ①市HPにて動画配信
- ②介護保険被保険者証の発送時、案内同封（令和7年度）
- ③静岡新聞に記事掲載（令和7年4月）
- ④ラジオでの周知（令和7年4月）
- ⑤SNS（X、Instagram）を活用した周知（令和7年11月）
- ⑥広告付き窓口番号案内表示システムにて放映（令和7年12月）
- ⑦TV放送（令和7年12月）

2. 市民向け周知

（4）エンディングノートの周知・配布状況について

① 令和6年3月から令和7年12月末までの印刷部数：22,500冊

同期間の配布部数：約20,000冊（内訳は以下のとおり）

・地域包括支援センター	約4,300冊
・医療機関	約4,000冊
・民生委員・自治会	約2,900冊
・市民個別配布	約1,900冊
・生涯学習センター	約1,500冊

②令和8年3月に10,000冊印刷予定

③令和7年8月からWord版を市HPに公開

（5）市主導の市民向け周知

①大学や専門学校での周知 約225名

②自治会・民生委員への周知 約140名

③関連イベント（※）内での周知 約400名

※健康フェスタ、行政書士イベント、高齢者虐待防止講演会

3. 参考資料

（1）「シズケア＊ささえあい連携シート」について（参考資料1のとおり）

- ・本人及び家族の想いを医療・ケアに生かすための連携ツール
- ・病状の変化に応じた話し合い不足の現状を踏まえ、令和7年度に静岡県医師会が作成
- ・エンディングノートが健康な方向けであるのに対し、慢性疾患や認知症など医療・介護を必要とする方が対象

（2）「エンディングプラン・サポート事業」について（参考資料2のとおり）

- ・高齢者の未来のあんしんに向けた取組として、「終活情報の登録・伝達（令和7年4月～）」等を実施してきた
- ・11月4日から、「エンディングプラン・サポート」の受付開始
- ・高齢者が終活支援優良事業者と締結する契約（葬儀、家財処分など死後事務に関するもの）に関して、市が「事業者による死後事務が終了するまでの一連の過程」を見届けるなどのサポートを行う

（1）在宅医等養成研修

- ①専門職向け研修 2回
- ②同行訪問研修 2回

（2）市民向け周知

【継続】

- ①在宅医療・介護出前講座
市民団体からの依頼に基づき実施
- ②広報
主にエンディングノートを活用して、ACPについての周知を行う
 - ・市HPにて動画配信
 - ・介護保険被保険者証の発送時、案内同封
 - ・SNS（X、Instagram）を活用した周知
 - ・3区役所の窓口番号案内表示システムにて放映
- ③エンディングノートの周知・配布
令和7年度同様、様々な場面に積極的に出向き、周知を行う

【新規】

- ①市主催の市民向け講座